

駿河湾の海岸に打ち上がる深海魚ミズウオ

久保田 正・佐藤 武

ミズウオ (*Alepisaurus ferox*, Lowe) は、ミズウオ科ミズウオ属に属する2種の中の1種です(図1)。世界中の海の深海域に分布しています。また、本種は、外洋性ですが、駿河湾の海岸に生きた状態で打ち上がる個体を採集することが出来ます。当湾の伊豆半島寄りの駿河トラフに接する三保海岸や湾奥の原、沼津、三津、大瀬崎に至る海岸に毎年冬春季に良く打ち上がります。西部の相良や御前崎の海岸では打ち上げ個体の記録は少なく、深みのある東部の海岸に圧倒的に多くの個体の打ち上げが報告されています。

ミズウオは、餌生物に対する選択性が無く、何でも捕食する習性があるので、本種が、生息する海域にはどのような生物が生息しているかを、胃内容物によって判断することが出来ます。三保の漁師によると、本種の捕食した生物(主に魚類)を観て近くの海にどのような魚類が来遊しているかによって、出漁の判断をしていたようです(図2)。

ところで、駿河湾のミズウオの研究は、著者らにより三保海岸に打ち上がる本種を1964(昭和39)年頃から近年まで長年に亘り採集し、何故打ち上がるのかさらに外部形態や胃内容物についての研究の成果を学術雑誌や学部の紀要などに発表しました。特に胃内にみられるプラスチック類捕食の現状については各種の冊子に紹介し、どこよりも早く1964(昭和39)年頃から重要な環境問題として提起して世間に警鐘を鳴らしてきました(図3)。

丁度著者らがこの研究を始めた頃、湾奥の原、沼津、三津から大瀬崎に至る海岸に打ち上がった本種を採集して部活動として研究を行っていました。それは、三島市にある日本大学三島高等学校の生物部の生徒です。1965~1967(昭和40~42)年に採集した多くの個体を用いて「ミズウオの研究」を行い、第11回静岡県学生科学賞・科学教育振興委員会金賞(代表:横山邦夫)の受賞という荣誉に浴しています。そ



図1 三保海岸に打ち上げられたミズウオ
1966年4月27日採集、体長90cm



図2 餌生物の捕食例
2002年2月20日採集、体長104cm
(共食いのミズウオ、イカの胴部、ハリセンボン、イワシダガなど)



図3 プラスチック類の捕食例
(複数個体による)スケールは10cm

の後はこの研究を引き継いで行っているという情報は、見当たらないので残念に思います(図4)。

近年、深海魚に興味を持つ人が多くなり、駿河湾の本種も良く知られるようになりました。特に三保海岸では毎年冬春季を中心に11月~翌年の5月に海岸に打ち上がるのは風物詩になっています。また、本種は、食用として利用されていませんが、その胃内容物に見られる様々な大きさや色などのプラスチック類のゴミなどから海洋汚染の指標種として扱われています。本種は、人間社会に警鐘を鳴らして重要な役割を果たしている深海魚の一種です。

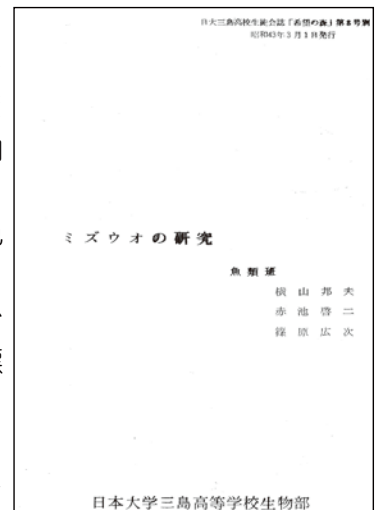


図4 日大三島高生徒会誌に掲載された「ミズウオの研究」の別刷りの表紙
(1968年発行、一部改変)